



10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[56]歳、勤続年数[32]年、現場経験年数[32]年、階級[消防司令補]、同様の活動[]、任務[車長]
○当事者B	年齢[48]歳、勤続年数[23]年、現場経験年数[23]年、階級[消防副士長]、同様の活動[]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[34]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1]年、階級[団員]、同様の活動[初めて]、任務[その他：消防団員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A・B・C	LPG漏洩調査により出場	
経過2	A・B・C	出場途上、がけ崩れが発生しており逃げ遅れた者がいる旨の情報を入手した	
経過3	A・B・C	現場到着時、周囲のガス臭は殆どしなかったため、現場直近部署した	
経過4	A・B・C	現場到着後、付近の状況・被害調査を実施した	
経過5	A	がけ崩れによりLPG集中管理貯蔵施設が倒壊し、LPGが大量漏洩しているのを発見した	50キロ×58本集中管理
経過6	A		
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○負傷事故の場合：負傷事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。現場周辺の地理を知っていた。指揮者が適切に指示した。他隊(員)との連携活動がうまくいった。たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・ 活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	はい
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	はい
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	はい
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・ 足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

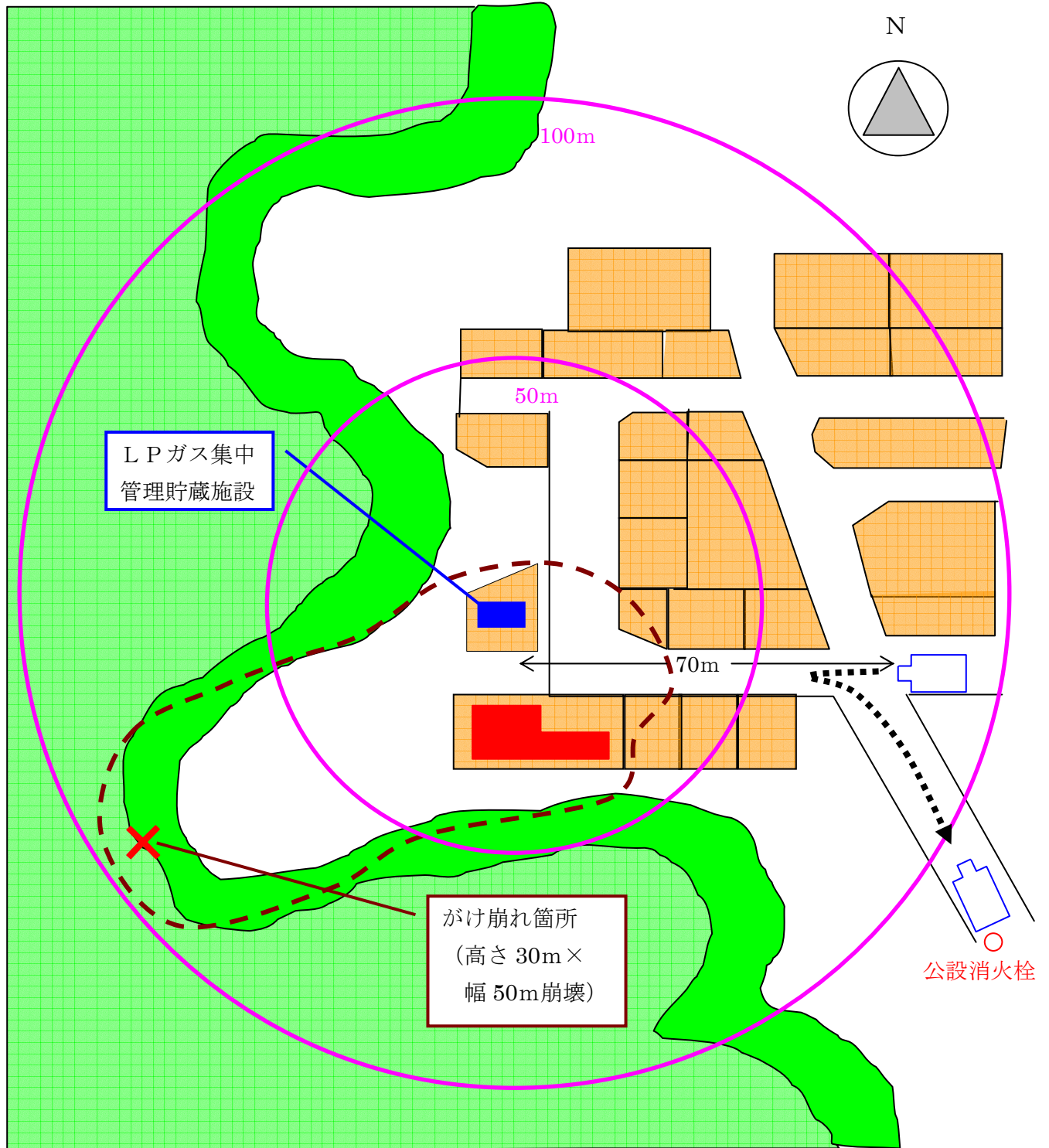
・ 隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・ 隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ
-----

# 現場見取図



○ヒヤリハット事例：LPガス漏れ出場時における現場部署位置での事例  
 (同様の体験は、初めて体験した。)

(06H0023)

・発生日時：平成18年7月 午前0時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		車長／消防司令補 ・年齢 56 歳 ・勤続 32 年 ・現場 32 年 ・同様の活動: 初めて	機関員／消防副士長 ・年齢 48 歳 ・勤続 23 年 ・現場 23 年 ・同様の活動:	消防団員 ・年齢 34 歳 ・勤続 1 年 ・現場 1 年 ・同様の活動: 初めて	
	午前0時、天候は雨	LPG漏洩調査により出場			
	出場途上、がけ崩れが発生しており逃げ遅れた者がいる旨の情報	↓			
	風向きによりガス臭が弱い、周囲には予想を上回る大量のガスが広範囲に充満している状況				
		現場到着時、周囲のガス臭は殆どしなかったため、現場直近部署した			危険予測の不測(ガス臭が弱かったため少量だと思い込みによる直近部署)
		現場到着後、付近の状況・被害調査を実施した			
	がけ崩れによりLPG集中管理貯蔵施設(50キロ×58本集中管理)が倒壊	↓			情報入手の遅延(現場到着後、LPG集中管理貯蔵施設が土砂により倒壊しているのを発見した。)
		↓			
		部署していた先着車両を慌てて後方へ退避させた。			

◎ヒヤリハットが起きたのはどうしてだと思うか？また、どうして負傷事故に至らなかったか

- 直接的な原因：情報入力に問題があった。
- 直接的な原因：状況判断に問題があった。
- 直接的な原因：行動の意志決定に問題があった。
  - ・危険情報を把握、予見できた。
  - ・危険事象の対応方法を知っていた。
  - ・集中力、注意力があった。
  - ・避難・退避がうまくいった。
  - ・現場周辺の地理を知っていた。
  - ・指揮者が適切に指示した。
  - ・他隊(員)との連携活動がうまくいった。
  - ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
  - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
  - ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
  - ・活動に対する経験が不足していた。
- (装備・資機材について)
  - ・装備・資機材自体に問題があった。
  - ・装備・資機材の対処能力を超えていた。
  - ・必要とする装備・資機材がなかった。
- (活動環境について)
  - ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。
  - ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
  - ・狭隘な場所であった。
  - ・野次馬が多かった。
  - ・足元が躓いたり滑りやすかった。
  - ・足元の強度が不足していた。
- (指揮・管理について)
  - ・隊員が不足していた。